

第20回独立行政法人農林漁業信用基金漁業信用保険業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和7年9月19日(金) 9時55分～11時30分
- (2) 場所 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー28階
独立行政法人 農林漁業信用基金 大会議室

2 出席者

- (1) 運営委員(出資者・学識経験者別 五十音順)
出 資 者：佐藤(則)委員、佐藤(靖)委員、高屋委員、滝井委員、深井委員
学識経験者：伊藤委員、深川委員、宮本委員、山本委員
- (2) 信用基金
牧元理事長、北副理事長、山根理事、鹿田理事
- (3) オブザーバー(主務省)
手嶋財務省大臣官房政策金融課課長補佐
永田水産庁漁政部水産経営課長
宮澤水産庁漁政部水産経営課課長補佐

3 提出議案

- (1) 報告事項
 - ① 令和6年度に係る業務の実績に関する評価について
 - ② 令和6年度決算について
 - ③ 独立行政法人農林漁業信用基金の農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について
 - ④ 第5期中期計画の変更について
 - ⑤ 令和6年度の漁業信用保険業務の概況について
 - ⑥ 保険料率の見直しの検討について
- (2) 情報提供事項
 - ① 水産金融施策について
 - ② 委員からの情報提供

4 議事経過の概要及びその結果

上記3(1)について信用基金から報告を行った。その後、上記3(2)について水産庁及び各運営委員からの情報提供がなされた。

出席者からの主な質問・意見等は以下のとおり。

(○は運営委員、←は信用基金の応答。)

【質問・意見等】

(1) 報告事項

⑥保険料率の見直しの検討について

○ 近代化資金のみならず、公庫資金まで検討いただきありがたい。今回の取組の趣旨を鑑みると、保証料率も併せて見直すべきと思料するが、現時点では保証料についての言及はない。保証料引き下げを前提とした整理としているのか、あくまで協会側で判断するようにということか、今後具体的に言及される予定はあるか。

← 保険料に連動して保証料も引き下げいただくことを大前提に考えているが、収入減を懸念しているといった御意見も頂いており、現時点では調整中である。適宜情報共有しながら、基金協会にも協調して保証料を下げいただく形で議論を進めていきたいと考えている。

○ 当基金協会としても、保険料と同様に保証料率の引下げを検討している。融資の利用、保証残高の維持拡大に繋げるためにも、しっかりと漁業者に還元したいと考えている。

○ 漁業者への還元を考え、保証料も引下げる方向で検討しているが、各支所の近代化資金の保証料率が統一されていないことから、全支所一律に引き下げを行えるかについて、今後早急に検討していきたい。また、当資金の貸付金利について、4者協議会において、信漁連等融資機関に近代化資金並みへの引き下げを要請したいと考えている。

← 保証料の引き下げにつき検討頂き感謝。基金協会と協調して取り組んでいきたいと思っている。融資機関の貸付金利については、融資機関と保証機関が連携し、良い融資条件を漁業者に提示できるよう、引き続き関係機関に働きかけをしていきたい。

(2) 報告事項

(質疑なし)

(3) その他

委員からの情報提供

○ サンマが豊漁で業績に期待。主力の遠洋鮪は燃油や人件費等が高騰する一方で魚価が低迷していたが、直近では回復傾向であり、収支改善を期待。高齢船を抱える漁業者が多く、代船建造を進める必要があるが船価が高騰しているため、もうかる漁業やリース事業等の制度利用による支援が必要不可欠な状況。保険料率と合わせて保証料も見直し、漁業者の負担軽減及び融資拡大に繋げていきたい。引き続き保険料率引き下げの実現に向けた取組をお願いしたい。

○ 中期戦略に基づき、効率的な事業運営、組織強化に取り組んでいる。

事業推進面では、漁業金融機能の強化を柱におき、訪問活動の強化、提案型営業に取り組んでいる。態勢整備や人材育成が課題であり、引き続き関係機関と連携して取り組んでいきたい。今後は大規模漁業者や水産加工バリューチェーンへの貸出領域拡大に向けた検討も進めており、引き続きお力添えをお願いしたい。

○ 幸いにも今夏の赤潮被害はなし。養殖海域においては高水温が続いており状況注視している。飼料高騰や販売価格低迷により依然経営は厳しく、運転資金の需要が見込まれると思われる。期中管理の強化に向け、信漁連と漁協と3者合意を結び、体制の組み換えに着手。体制確立に向け引き続き取り組みたい。今後、新たな柱として公庫受託貸付の副保証を推進予定。保険料低減を活用し保証拡大に繋げていきたい。

○ 保証状況は、昨年に比べ引受、残高ともに増加。求償権については計画的に回収している。海の状況としては伊勢海老が豊漁。トラフグの水揚げが近年増加し、フグ毒の取扱いに苦慮しているが、フグ調理師を増やす取組も進めている。太刀魚は全国一位の生産量となった。黒潮の大蛇行終息による今後の影響は不透明。カツオの漁獲量は大幅に減少。スルメイカやサンマは久しぶりに順調だが、今後を不安視する漁業者も多く、新たな融資に繋げていければと考えている。

○ 黒潮の影響により、鰺、鯖、鰯主体のまき網や、鮑、サザエ、伊勢海老等が不漁となっていた一方で、鮪類の一本釣りやまき網で豊漁が続いていた。黒潮の大蛇行が終息し、資源回復には時間がかかると思われるが、来春以降の鯖等の水揚げに期待。魚類養殖は収支的には比較的安定推移。融資の状況は、リース事業が頭打ちとなり近代化資金は計画を下回った。求償権の管理回収が一層厳しくなっている状況の中、助成金を活用し、一部債権回収を委託。徐々に成果を上げている。引き続き継続して対応していきたい。

- 海洋環境の変化、温暖化の影響を受け、漁獲魚種の変化や、漁獲時期の遅れといった傾向がみられ、今後の資源状況の影響を懸念。また、船団数の減少により、地元経済への影響を危惧。船価や修繕費の高騰、人手不足により、企業誘致や事業継承が難しく、大きな問題となっている。事業継続においては代船建造が非常に大きなテーマであるが、各制度の活用はもとより、事業者がリスクを極力抑えながら事業継続していけるよう、引き続き支援いただきたい。
- 4年連続赤潮被害が発生。今年度は発生予測がなかったものの、発生しており、一昨年は5月から8月にかけて発生していたところ、今年度は9月まで赤潮収束せず、期間も長期化している。また、毒性の強いシャットネラ種や高密度化するカレニアミキモトイ種等、多種類の赤潮が日替わりで発生し、状況は複雑化している。近隣県と情報交換しながら赤潮被害軽減に努めているが、中国やウクライナ問題による資材、飼料価格の高騰に加え、高水温により養殖魚の成育が悪く、廃業する漁業者や、事業継承を断念する漁業者が増えつつあり、前向きに事業継続に取り組む事業者への影響を懸念。支え合って経営継続していけるよう、引き続きバックアップをお願いしたい。
- 昨年に比べホタテのラーバの出現数が増加しており、昆布の成育も順調。サンマは大不漁を予想していたが、出だしは好調に推移。海洋環境の変化や黒潮の大蛇行による影響という話を聞くが、成分分析のデータからは原因解明に至っておらず、不安要素が残る。引き続き状況を注視していきたい。

以前、令和4年9月に選択保険の上限額引き上げにつき要望させて頂き、検討して頂いたがあまり良い回答を頂けなかったと記憶している。漁業者にとって使いやすい制度になるよう、今一度ご検討をお願いしたい。
- ← 選択保険については、当時水産庁から「協会で意見を統一してから水産庁に相談し、その後、水産庁と基金との検討も必要」との方針が示され、その方針を踏まえ基金から各基金協会に考え方を確認し、全国協会以外は引上げを求めないという回答結果を過年度の運営委員会で報告させていただいた。その際、まずは全国協会での協会としての考え方をすり合わせるよう、水産庁から運営委員にお話し頂いており、同様の要望がある場合には、全国協会での議論が再開されることになると思う。

以上